

2年生の地理 世界と比べた日本の地域的特色 重要語句

教科書のページ（P132～166）を確認しながら考えましょう。

P132、133

- 地震や火山活動が活発なアルプス山脈からヒマラヤ山脈、インドネシアに続く造山帯。
- ロッキー山脈、アンデス山脈、ニュージーランド、日本列島など太平洋を取り囲むように連なる造山帯。

P134、135

- 本州の中央部にそびえる3000m級の山々。
- 問題3の東側にある断層。この断層を境にして山地や山脈の並ぶ方向が異なる。
- 小さな岬と湾がくり返す入り組んだ海岸。
- 九十九里浜に代表される海岸。
- 堤防を築き、内部の水を排水して陸地をつくること。
- 大陸の周辺にみられる海岸からゆるやかに傾斜しながら続く海底。
- 暖流と寒流がぶつかる海域。

P136、137

- 日本で最も流域面積が広い河川。
- まわりを山地で囲まれた、低くて平らな土地。
- 山地から流れ出す川によって運ばれた土砂が山のふもとにたまってできた扇形の地形。主に果樹園に利用。
- 河口に土砂が三角の形にたまってできた地形。主に水田に利用。
- 川や海沿いの平地よりも一段高くなっている土地。

P138～141

- 地表にあるものの位置、高さ、形などを計測し、規則に従って縮めて表した地図。
- 縮める割合。
- 地図上に表されている記号。
- 地表の同じ高さのところを線で結んだ線。

P142～143

- 本州、九州、四国が属する気候帯。
- 北海道が属する気候帯。
- 季節に応じて風向きが変わる風。夏には太平洋上から暖かく湿った風が、冬にはユーラシア大陸から冷たく乾いた風が吹く。
- 北海道と小笠原諸島を除いて、5月から7月にかけて雨の多い期間。
- 全般的に冷涼で、とくに冬の寒さが厳しい気候。

1	アルプス・ヒマラヤ造山帯
2	環太平洋造山帯
3	日本アルプス
4	フォッサマグナ
5	リアス海岸
6	砂浜海岸
7	干拓
8	大陸棚
9	潮目
10	利根川
11	盆地
12	扇状地
13	三角州
14	台地
15	地形図
16	縮尺
17	地図記号
18	等高線
19	温帯
20	亜寒帯（冷帯）
21	季節風
22	梅雨
23	北海道の気候

- 24 冬に雪が多い気候。
- 25 冬は晴天が多く、夏に雨が多い気候。
- 26 1年を通して降水量が少ない気候。夏と冬の気温差が大きい。
- 27 一年中温暖で降水量が少ない気候。
- 28 1年を通して雨が多い。冬でも温暖な気候。

PI44～145

- 29 地震の振動により水と砂を多く含む地面が一時的に液体のようになる現象。
- 30 地震によって海底の地形が変形して発生する災害。
- 31 台風や低気圧などの影響で海面が高まること。
- 32 長雨や集中豪雨の影響で土砂が一気に下流へ流されること。
- 33 雨がふらないなどが原因でおこる長期間の水不足の状態。
- 34 夏に低温が続いて起こる農業被害。

PI46～147

- 35 自然災害等の被害が及ぶのを防ぐこと。
- 36 被害をできるだけ少なくすること。
- 37 国や県、市町村などが災害時に救助や支援を行うこと。
- 38 問題37にたよるだけでなく、自分自身や家族を守ること。
- 39 住民どうしが協力して助け合うこと。
- 40 地震や川のはんらんなどによる被害を予測した地図。

PI50～151

- 41 ある国や地域の人口を、その面積で割ったもの。
- 42 農業や鉱業が中心で、工業などは開発の途中にある国。
- 43 縦軸に年齢、横軸に各年齢層の男女の割合をとり、国や地域の人口構成を示したグラフ。
- 44 急激な人口増加。
- 45 早くから工業が発達した技術的にも経済的にも進んだ国。

PI52～153

- 46 出生率が下がり、子どもの数が減る少子化と平均寿命がのびて高齢者の数が増える高齢化が進んだ社会。
- 47 人口が多い東京・大阪・名古屋を中心とする都市圏。
- 48 都市部など人口が集中すること。
- 49 農村や山間部、離島など老年人口の割合が増え、地域社会を支える活動が困難になる状態。
- 50 大都市圏出身者が大都市圏以外の地域に移り住むこと。
- 51 大都市圏以外の出身者が大都市圏に移住し、出身地またはその近くにもどること。

24	日本海側の気候
25	太平洋側の気候
26	内陸の気候
27	瀬戸内の気候
28	南西諸島の気候
29	液状化
30	津波
31	高潮
32	土石流
33	干ばつ
34	冷害
35	防災
36	減災
37	公助
38	自助
39	共助
40	ハザードマップ
41	人口密度
42	発展途上国
43	人口ピラミッド
44	人口爆発
45	先進国
46	少子高齢社会
47	三大都市圏
48	過密
49	過疎
50	Iターン
51	Uターン

PI54～155

- 52 鉄鉱石や、エネルギー資源として利用される原油や石炭などの鉱物。
- 53 埋蔵量がひじょうに少ない金属や純粋なものを取り出すのに難しい金属のこと。
- 54 温室効果ガスの増加によって気温が少しずつ高くなること。
- 55 くり返し利用できる自然の力をエネルギー源とするもの。水力や風力、太陽光、地熱など。
- 56 とうもろこしやさとうきびなどを原料として生産される燃料。

PI56～157

- 57 ダムの水を利用する発電。
- 58 原油や石炭、天然ガスを燃料とした発電。
- 59 原子力を利用した発電。東北地方太平洋沖地震で発生した津波などによる福島県での事故をきっかけに利用が見直されている。
- 60 将来の世代のことを考えた社会づくり。

PI58～159

- 61 都市から距離の近い地域で行われる農業。
- 62 出荷時期に合わせて作物の生育を遅らせる栽培方法。
- 63 出荷時期に合わせて作物の生育を早めて出荷時期をずらす栽培方法。
- 64 国内で消費する食料のうちの国内産でまかなえる割合のこと。
- 65 陸地からはなれた沖合で行う漁業。
- 66 沖合よりさらに遠くはなれた海域で行う漁業。
- 67 領海を除く海岸線から200海里（約370 km）以内の範囲。
- 68 魚介類をいけす、いかだなどで人が育てて増やすこと。
- 69 海底に魚が集まる漁場をつくったり稚魚や稚貝を放流したりして漁業資源を増やそうとする漁業。

PI60～161

- 70 軽くて製造技術が比較的簡単な製品を生産する工業。
- 71 比較的重い製品を生産する工業。
- 72 生産に高度な技術が必要な産業。
- 73 関東地方から九州地方北部にかけてのびる带状の工業地域。
- 74 自動車やオートバイなどをつくる工業。
- 75 原料や燃料を輸入して製品を輸出する貿易。
- 76 貿易が原因で国内の産業・社会に生じる問題。
- 77 企業の海外進出や価格の安い外国企業からの輸入で、国内の生産が衰退すること。

52	こうさんしげん 鉱産資源
53	レアメタル
54	ちきゅうおんだんか 地球温暖化
55	さいせいかのう 再生可能エネルギー
56	バイオ燃料
57	すいりょくはつでん 水力発電
58	かりょくはつでん 火力発電
59	げんしりょくはつでん 原子力発電
60	じぞくかのう 持続可能な社会
61	きんこうのうぎよう 近郊農業
62	よくせいさいばい 抑制栽培
63	そくせいさいばい 促成栽培
64	しょくりようじきゅうりつ 食料自給率
65	おきあいぎょぎよう 沖合漁業
66	えんようぎょぎよう 遠洋漁業
67	はいたてきけいざいすいき 排他的経済水域
68	ようしょくぎよう 養殖業
69	さいばいぎょぎよう 栽培漁業
70	けいこうぎよう 軽工業
71	じゅうかがくこうぎよう 重化学工業
72	せんたんぎじゅつさんぎよう 先端技術産業
73	たいへいよう 太平洋ベルト
74	ゆそうきかいこうぎよう 輸送機械工業
75	かこうぼうえき 加工貿易
76	ぼうえきまさつ 貿易摩擦
77	さんぎよう 産業の空洞化

P162～163

- 78 産業の分類で、農業・林業・漁業など。
- 79 鉱工業・建設業などの産業。
- 80 小売業・卸売業などの商業や運輸・郵便業、サービス業など。
- 81 パソコンやインターネットなど、情報や通信に関連する技術を用いた産業。

P164～166

- 82 安くて大量に輸送できるタンカーやコンテナ船を使った輸送。
- 83 電子装置や貴金属、魚介類・生花など軽くて高価なものを航空機をつかって運ぶ輸送。
- 84 航空路が放射状にのびる拠点の空港。
- 85 通信衛星にかわる、高速で大容量の光ファイバーを用いた大陸間の国際通信。
- 86 インターネットを利用できる人とできない人との間でおきる格差。

78	第1次産業
79	第2次産業
80	第3次産業
81	情報通信技術（ICT）関連産業
82	海上輸送
83	航空輸送
84	ハブ空港
85	海底ケーブル
86	情報格差